

東京ベイエリアビジョン（仮称）庁内検討委員会（第3回）（令和元年10月21日）

議事概要

1) 官民連携チーム提案書を受理したため、内容について説明しました。【資料2】

（説明概要）

- 今回の提案は、官民連携チームから庁内検討委員会への最終提案となる。
- 提案書冒頭ではベイエリアの地図と、11の提案のイメージを示している。目指す姿を「ベイエリアの強みを生かして世界から人と投資を呼び込み、東京の持続的な成長を牽引する未来創造域へ！」とし、東京、日本の今後の成長を創り出す場所として世界に発信していくため、3つの姿を目指すこととされている。
- 11の提案内容については提案書記載のとおりとなっている。

2) 「長期戦略」と「東京ベイエリアビジョン」（仮称）の策定について【資料3】

「長期戦略」と「東京ベイエリアビジョン」（仮称）の取組について（当面のスケジュール）

【資料4】について説明しました。

（説明概要）

- 長期戦略と東京ベイエリアビジョン（仮称）の関係性について説明する。
- 東京ベイエリアビジョン（仮称）は都市づくりのグランドデザインを踏まえて、既往の臨海副都心等の計画を更に次のステージに進めるという位置づけとしており、官民連携チームからの提案も踏まえながら検討を重ねてきた。
- 長期戦略は、ソフト・ハード両面から東京の長期的な計画を示すものとして検討が進められており、今年8月には「未来の東京」への論点が発表されたところである。「未来の東京」への論点では、東京ベイエリアビジョン（仮称）と同様に2040年代を想定した東京の未来像が描かれており、その実現のために2030年に向けた検討課題が提示されている。その中でベイエリアについては、「新たな形を生み出し、未来を創造する。」となっており、東京ベイエリアビジョン（仮称）の検討の方向性と軌を一にしている。
- 東京ベイエリアビジョン（仮称）は長期戦略と調整を図りながら策定を進め、最終的な取りまとめ時期は来年頃を検討している。今年12月末を目途に長期戦略ビジョンで最終的な取りまとめに向けて目指すべき東京の姿や将来に向けた目標と取り組むべき政策の柱などが示される予定であるので、当面はこれに向けてベイエリアの将来像、主な施策を反映することを目指していく。
- 庁内検討委員会等で適宜検討を重ねながら、最終的には2020大会のレガシーを反映して東京ベイエリアビジョン（仮称）の策定を進める。